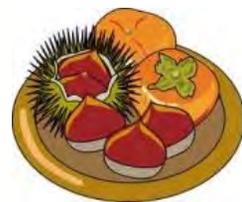


川上ダム通信

2014
11
月号



Vol. 110
Since 2005

独立行政法人水資源機構 川上ダム建設所
〒518-0294 三重県伊賀市阿保 251 番地 TEL: 0595-52-1661 (代)

川上ダム通信は川上ダムホームページでもご覧いただけます。
<http://www.water.go.jp/kansai/kawakami> 又は「川上ダム通信」で検索
ご意見・ご感想はこちらへ <mailto:somu1@lily.ocn.ne.jp>



川上ダムを調査せよ！

第10回「水の調査隊」探検に出発！

平成20年10月より実施しています「水の調査隊」が、
今回10月21日（火）の開催で10回目となりました。

当日は、伊賀市立青山小学校において4年生の児童65名
が「水の調査隊」として、①水の大切さ、②川上ダムに貯め
られた水の使われ方、③川上ダムが洪水を貯めて下流の洪水
被害を軽減することなどの役割を学びました。当機構職員の
説明を受けた児童から「ダムはいつできるのか」との質問が
あり、これに対して職員は「工事の準備に2年、工事に6年、
合わせて完成までに8年かかる」と回答しました。

また、教室に体長約65cm、年齢12歳の特別天然記念
物オオサンショウウオが登場すると、児童の視線は水槽に集
まり、オオサンショウウオが地元の川に生息していることなどの説明を聞くと、大変興味深そうに観察して
いました。

その後、児童は川上ダム建設予定地に移動し、全長276.5mの仮排水路トンネルの内部やダムサイト
予定地を見学しました。仮排水路トンネル内部では、大きな声を出してトンネル内に響き渡る自分の声を楽しんだり、トンネル内でカニやコウモリなどの生き物を発見すると大きな歓声を上げたりして、普段体験できない暗闇を楽しみました。

今回の「水の調査隊」は、台風19号の接近により一度開催日を延期していたため、前日の雨により開催
できるかどうか心配していましたが、朝方には雨は上がり、無事に開催できてほっとしたところです。

毎回、大人とは違う視点から出される、子供ならではの質問を楽しみに説明に臨んでいるのですが、後から「ちゃんと説明できたかな」「こう伝えた方がよかったかな」と反省もしています。もし、当日に「よくわからなかった」「聞き忘れた」ことがあったら、いつでも本紙末尾の問い合わせ先にお問い合わせいただければと思います。

最後になりましたが、授業時間の日程調整等でお世話になった先生方や父兄の皆様には本紙面を借りてお礼申し上げます。

次回も参加する児童の皆さんに楽しんで貰えるよう準備したいと思っておりますので、よろしくお願ひします。

※オオサンショウウオの移動は、文化庁の許可を頂いたうえで行っています。

【総務課 木村数也】



皆さん礼儀正しく聞いてくれました



ダムができるのはココですよ

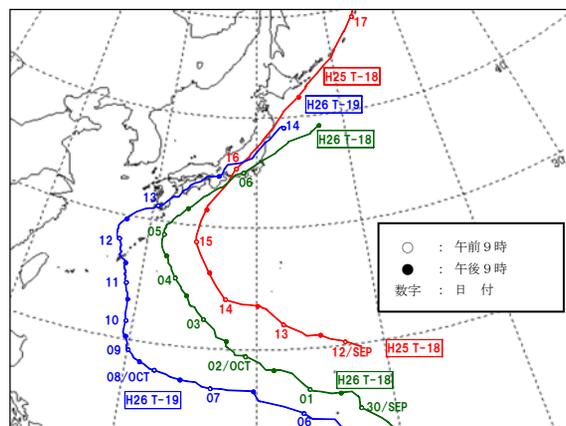
2週連続で週末を襲った台風

10月、2週連続で台風が日本に上陸し、各地で被害をもたらしました。川上ダム建設予定地がある伊賀地域には、台風18号が6日（月）早朝、台風19号が13日（月・祝）深夜に最接近したことから、当建設所では両日とも週末から防災態勢をとり警戒にあたりました。

特に台風19号は、フィリピンの東の海上で中心気圧900hPaと猛烈な勢力に発達し、一時は去年の台風18号の時のような浸水や土砂災害等の被害を心配していました。

幸いにも伊賀地域では、台風通過時に強い風は吹きましたが、雨は比較的少なく、大きな浸水被害等はありませんでした。

台風などの大雨の時には、降雨、河川水位の状況を気象庁や国土交通省のホームページで確認される方も多いと思いますが、水資源機構関西支社のホームページ「リアルタイム情報（URL <http://www.water.go.jp/kansai/kansai/index.html>）」でも、関西管内の機構ダムの雨量や放流量等が確認できます。是非ご利用いただき、防災にお役だて下さい。



H26 台風 18・19 号、H25 台風 18 号の
日本付近の経路
(出典：気象庁HP（一部加工）)

【工務課 田中英晶】

川上ダムから2論文が優秀賞受賞

水資源機構関西支社は、9月26日（金）に建設交流館（大阪市）において、平成26年度関西ブロック技術研究発表会を開催しました。

この発表会は、職員が創意工夫をしながら取り組んだ業務等について報告し、当機構における技術開発、技術力の向上と蓄積を図ること、および発表の機会を設けることで職員の自己啓発を促進することを目的として開催されています。

また、当機構の技術や業務内容への理解を深めていただくため、関西管内の利水者等関係機関の方々にもご出席いただいています。

本発表会は、今年度で17回目の開催となり、7事務所から13論文の発表が行われました。

当建設所からは、環境業務と用地業務に関する業務成果や配慮している点などについて2論文を発表しました。参加いただいた関係機関の皆様や関西ブロック内の職員に当建設所の取り組みを知っていただく良い機会となりました。

当建設所の2論文は共に優秀賞を受賞し、11月に当機構本社（さいたま市）で開催される技術研究発表会において、関西ブロックのほか、関東、中部、四国、九州の各ブロックから選抜された論文とともに、発表することになりました。

【調査設計課 高野浩一】



熱弁に耳を傾ける聴講者



緊張した面持ちで表彰状を受けとる受賞者

「青山の秋を楽しむ」～第10回ふれあいフェスタ in 青山～

絶好の秋晴れとなった10月26日(日)、「第10回ふれあいフェスタ in 青山」が、伊賀市役所青山支所周辺を会場に開催されました。

当日は、旧青山町の各地区から、取れたてのお米や野菜、地元ならではの工芸品の販売やチェーンソーアート、和太鼓演奏など、青山の秋を楽しむ様々なイベントが行われました。また、今年は「伊賀市国際交流フェスタ2014」も同時開催されたことから、外国の方々もたくさん訪れており大変な賑わいとなりました。



クイズに挑戦 & 水の実験

当建設所では、ダムの役割、環境保全の取り組みなどのパネル展示やこれらにちなんだクイズを行うブースを出展しました。家族づれをはじめ、小さな子供たちなど、訪れたたくさんの方々からクイズで楽しみながら、ダムの役割や伊賀市に生息しているオオサンショウウオの生態などを学習してもらいました。また、ダムを知らない小さな子供たちからの「ダムってなあに」といった質問に対し、職員が同じ視線に立ってパネルを使いながらわかりやすく説明を行いました。

今後、地域のイベントなどに積極的に参加し、ダムの役割など、わかりやすく学んで頂けるよう、取り組んで参ります。

【第一用地課 高橋宏行】

環境用語集 #23 グリーン購入

今回は、グリーン購入について紹介したいと思います。

グリーン購入とは、製品やサービスを購入する際に、環境を考慮して必要性をよく考え、環境への負荷ができるだけ少ないものを選んで購入することです。

グリーン購入は、消費生活など購入者自身の活動を環境にやさしいものにするだけでなく、供給側の企業に環境負荷の少ない製品の開発を促すことで、経済活動全体を変えていく可能性を持っています。

また、平成13年4月に施行された「グリーン購入法」(国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律)では、国等の機関にグリーン購入を義務づけるとともに、地方公共団体や事業者・国民にもグリーン購入に努めることを求めており、幅広い主体が、それぞれの立場からグリーン購入を進めていくことが期待されています。

当建設所では、自動車、電化製品から事務用品に至るまで、100%グリーン購入法適合製品を調達し、発注する工事で使用する資材や重機については、要求される品質を考慮した上で、できる限り環境負荷が少ないものを使用を推進する取り組みを行っています。

また、私たちが日常生活で購入する商品や製品においても環境負荷の少ないものを選ぶことが大切であり、それらには右のような様々な環境ラベルが付いています。みなさんもこの環境ラベルを目印に環境にやさしいものを選んでみてはいかがでしょうか。

出典：環境省HP



環境ラベルの一例

【環境課 金井大輔】

～ちよつと一服



皆さんは、11月28日が何の日か知っていますか？ 実は、松尾芭蕉翁の命日（西暦1694年11月28日・元禄7年10月12日）なんです。伊賀市では新暦でも10月12日を忌日として、芭蕉祭を行っています。歴史にあまり興味が無い人でも、芭蕉翁「奥の細道」と聞けば、殆どの方が知っている日本が誇る俳諧文学の偉人、江戸時代前期の超有名な人物であり、本名は松尾宗房。幼名を金作。俳号として桃青、芭蕉（仮名書き署名は「はせを」）など。特に俳諧の世界では蕉風と呼ばれる芸術性の極めてたかい句風を確立し、後に俳聖として世界的にも知られる日本史上最高の俳諧師の一人なのです。

ちなみに、現在「俳句」と呼ばれる五七五で季語入りの句は、江戸時代には俳諧の発句と言ったんですよ。



芭蕉翁像

今年で生誕 370 年にあたるそうなので、芭蕉翁にちなむ事柄を記事にしました。代表的な『奥の細道』では、芭蕉翁は江戸～東北～北陸～岐阜の大垣で数々の俳諧を詠みました。その足跡を記念碑等でご覧になった方々もたくさんおられるかと思います。

前置きはこれくらいにして、今回は伊賀上野にちなんだゆかりの場所を紹介します。

まず、芭蕉翁が育ち帰省する実家であった芭蕉翁生家。その奥庭に処女句集『貝おほひ』を執筆した釣月軒があります。

それから芭蕉翁の真筆や俳諧の文献などが多数展示されている芭蕉翁記念館（今年は11月3日まで特別展「俳諧中興時代－芭蕉に帰れ－」、11月5日～12月27日まで「芭蕉に帰れⅡ」という企画展を開催）があり、近くには国指定重要文化財で、芭蕉翁の旅姿を模したといわれる俳聖殿もあります。

皆さんも旅の途中のどこかで芭蕉翁の俳諧の碑を見かけたら一度想い出して下さい。故郷をはなれ、この景色を見ながら芭蕉翁は何を感じ何を思ったのか・・・

【第二用地課 福田達也】



芭蕉翁生家



俳聖殿

イベントのお知らせ

大村神社例祭

開催日時：11月2日（日）・3日（月・祝）

開催場所：大村神社（伊賀市阿保1555）

お問い合わせ：大村神社社務所

TEL：0595-52-1050

桐ヶ丘フェスタ2014

開催日時：11月8日（土）

開催場所：桐ヶ丘3丁目駐車場周辺・アミティー

お問い合わせ：桐ヶ丘フェスタ実行委員会

TEL：0595-52-0204

当建設所では、読者の皆様により一層親しみながら川上ダム通信をお読み頂けるよう、本紙に対するご意見や掲載記事を募集しています。詳細については、下記までお問い合わせくださいますようお願いいたします。

【問い合わせ先】総務課 梅村 TEL：0595-52-1661

Mail：somu1@lily.ocn.ne.jp

※掲載記事については、広告など営利目的のものはお受け致しかねますのでご了承下さい。

【広報誌発行事務局】

編集長	神矢（所長）	
デスク	梅村（総務課長）	田中（工務課長）
記者	渡辺（総務課）	高橋（第一用地課）
	桐山（第二用地課）	大谷（調査設計課）
	金井（環境課）	飯島（工事課）
	日隈（工務課）	